

【高等学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立牛津高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が学校の教育目標の実現に向けて取り組むことができた。 ・学校評価アンケートでは、生徒・保護者から概ね良好な評価を得ることができた。特に、「基本的な生活習慣や規範意識」「電子黒板や学習用PCの効果的使用」では、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると90ポイント以上であった。
2 学校教育目標	人格の向上を目指し、教養を高めるとともに、専門的な知識・技術の習得を図り、心身ともに健全で調和のとれた有為な職業人として志を高く持ち、社会に貢献できる人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性と専門性を兼ね備えた生活産業を担う職業人を育成できるように、知・徳・体バランスの取れた教育を推進し、魅力ある学校づくりを行う。 ・業務改善・教職員の働き方改革を促進する。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○共通教科の基礎学力の向上 ○家庭科教育の充実 ・専門的学習の基礎・基本の定着 ・起業家マインドの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎力診断テストの成績でD1以上の生徒の割合を60%以上にする。 ○家庭科技術検定の合格率100%とする。 ○専門科目や「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」などを通して起業家マインドの育成を目指す。起業家入門Ⅰ希望者は定員100%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標規準を意識した授業の工夫・改善を図るとともに、適切な課題の出し方について各教科内で共通理解を図り、実践する。 ・指導方法や教材についての研究を行うと共に生徒個々の到達度に応じた指導を行う。 ・技術の到達度を評価する独自の実技テストを実施する。 ・起業家マインドの育成について、「起業家入門Ⅰ」各科目において指導者の意識の共有化を図る。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会等を実施し、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心を持つ生徒を90%以上にする。 ○学校では、いじめや差別をしないさせない許さない教育が行われていると回答した生徒を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にすることを育成する。 ・総合的な探求の時間やボランティア活動を通して、他者への思いやりや社会性など豊かな心を身につけさせる教育活動を行う。 ・授業や様々な場面において、豊かな心を身に付ける教育を行う。 ・いじめに関するアンケートを2回以上実施し、また面談や学校生活のあらゆる場面を活用し、生徒の実態把握に努めると共に、いじめの芽を早期発見し、早期解決を目指す。 ・職員研修を行い、組織的ないじめ対応を行う。 	・	・	・	・
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●安全に関する資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食喫食率を95%以上にする。 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。 ○非常災害に備えることができていると考える生徒の割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県の歴史や風土について学ぶ講演会や「佐賀語り」等を活用した事業に4時間程度取り組む。 ・地域貢献・活性化の活動(地域美化作業2回・牛尾山環境美化ボランティア2回・牛尾山梅林梅ちぎり1回・施設訪問1回・交流活動4回)に取り組む。 ・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。 ・防災避難訓練を通して防災に対する意識の向上を図る。 	・	・	・	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○教職員のスキルアップによる業務効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在学等時間の上限を遵守する。 ○SEI-Net、校務システム等を有効活用し、業務効率化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交通安全を〇(ゼロ)にする ○自転車マナーやルールを守る意識が向上したと考える生徒を95%以上にする。 ・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定 ・全職員がSEI-Net等の機能を有効に活用できるように研修会を実施する。 	・	・	・	・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果
				○魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○留得した専門的知識や技術をふまえた進路の実現 ○選ばれる学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○進学希望者においては、将来の指導者育成も視野に入れ家政系の大学・短大・専門学校進学を80%以上とする。 ○就職希望者においては、専門技術を活用できる、もしくはそれに関連する事業所への就職を80%以上とする。 ○入試において志願者倍率1.2倍をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大・専門学校の学校推薦型選抜(公募)及び一般選抜型入試に対応することのできる指導体制を構築し、生徒の幅広い要望に備える。 ・面談を十分に実施し、生徒の要望のみならず適性等も把握し、事業所との連絡・連携を図りながら細やかな情報提供を行う。 ・定員割れの原因究明を多角的に行い、全職員の共通理解のもとで、体験入学・学校見学会等の工夫・改善を行う。 ・中学生及び保護者に向けての広報の在り方の工夫・改善を行う。 ・学校PRや生徒募集につながる取組(近隣小中学校での家庭科、技術・家庭科の授業のサポート、卒業生からのメッセージの紹介等)を充実する。

●…県共通 ○…学校独自 ●…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・